

姫路市総合交通計画の進捗状況について

2023年(令和5年)7月27日

姫路市 都市局 交通計画部 地域公共交通課

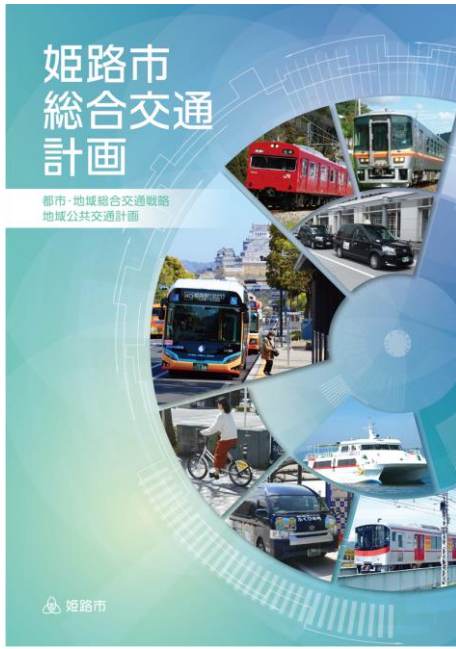
— 目次 —

1 計画の概要	3
2 計画の数値目標・評価	5
3 令和4年度 事業評価	10
おわりに	18



1 計画の概要

1 計画の概要



策定年月

令和3年7月

計画期間

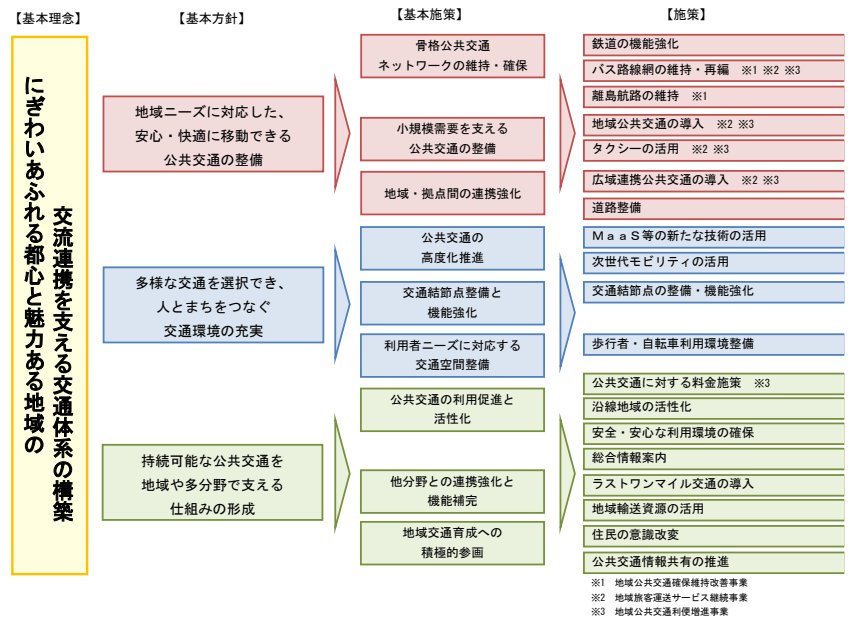
令和3年度～令和12年度(10年間)

基本理念

にぎわいあふれる都心と魅力ある地域の
交流連携を支える交通体系の構築

基本方針等

基本理念などを実現するための
3つの基本方針や9つの主要施策、
19の施策、41の事業 を展開



2 計画の数値目標・評価

計画全体の数値目標 ☞ 毎年進捗を管理

- ・ 1日当たりの公共交通利用者数（鉄道・バス・旅客船）
- ・ 公的資金が投入されている公共交通の収支率
- ・ 市民1人当たりの公共交通への公的資金投入額（上限額）

基本方針の数値目標 ☞ 3年に1度の進捗管理（R6年度に評価）

- ・ 公共交通空白地域・不便地域面積の減少率
- ・ 公共交通利用満足度

＜地域公共交通計画の評価等の結果の様式＞

姫路市総合交通計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
1日当たりの公共交通利用者数 (鉄道・バス・旅客船) 17万人(2019年度) ⇒17万人(2025年度目標) ⇒17.1万人(2030年度目標)	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道の利用促進 バス路線網の維持 バス路線網の再編 郊外部と都心部を連携するバス路線の機能強化 離島航路の運営支援 姫路港旅客ターミナルエリア再編整備 地域公共交通の導入 タクシーの活用 広域連携公共交通の導入 幹線道路整備 	交通事業者の有する乗降データを用いて集計	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数：15万人 (2021年度参考目標値：15.1万人) 鉄道については、概ね目標値まで回復しているが、路線バスや離島航路については、新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化や離島人口の減少等により目標値までは達しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 離島人口の減少率、高齢化率が本市全体と比べ非常に高く、島民以外の利用者の獲得が求められる。 特に路線バスや離島航路の利用者回復のため引き続き取組を進め、目標値の達成を目指す。 	
公的資金が投入されている公共交通の収支率※1 88%(2019年度) ⇒88%(2030年度目標)	<ul style="list-style-type: none"> バスバイ設置推進 MaaSの活用 新駅整備 鉄道駅周辺整備 バス停留所整備 パーク&ライド、パーク&バスライド サイクル&バスライド 道の駅整備 自転車通行空間の整備 放置自転車対策 シェアサイクル「姬ちゃり」の利用促進 歩行環境の充実 沿線地域の活性化 公共交通のバリアフリー化 感染症対策 総合情報案内 ノーマイカーデーの推進 マイバス・マイ鉄道の日 モビリティ・マネジメントの推進 運転免許自主返納 出前講座の実施 	交通事業者令和4年度損益計算書より	<ul style="list-style-type: none"> 収支率：80% (2021年度参考目標値：79%) 概ね目標どおりの収支率となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通事業者の収支率は回復傾向にあり、目標値はクリアした。 引き続き取組を進めるとともに、バス路線網の再編に向けた検討を進める。 	
市民1人当たりの公共交通への公的資金投入額※2（上限額） 750円(2019年度) ⇒940円(2025年度目標) ⇒930円(2030年度目標)		令和4年度普通会計決算より	<ul style="list-style-type: none"> 公的資金投入額：1,040円 (2021年度参考目標値：1,280円) 姫路港～坊勢島航路について、運賃値上げ実施(令和4年10月)前の回数券のまとめ買いにより、収益が大幅に増加、黒字化したため補助金の投入が不要となった。 路線バスの補助についても、勉強会等による補助金削減により補助金投入額が計画値を下回った。 以上のことから公的資金の投入を大きく抑制しながら公共交通を維持できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 坊勢島航路の回数券のまとめ買いの反動から公的資金の投入額の増加が懸念される。 離島人口の減少率、高齢化率が本市全体と比べ非常に高く、島民以外の利用者の獲得が求められる。 利用者の増加、収支の回復を目指し引き続き取組を進め、既存交通を維持しながら1人当たりの公的資金の投入額の抑制を目指す。 	
公共交通空白・不便地域の面積減少率 100%(2019年度) ⇒95%(2030年度目標)	-	-	-	-	3年ごとに評価
公共交通利用満足度 42.4%(2019年度) ⇒47.4%(2030年度目標)	-	-	-	-	3年ごとに評価

※1 収支率＝収入額（運賃収入等。ただし公的補助金は含まない）÷支出額（事業に係る必要経費）

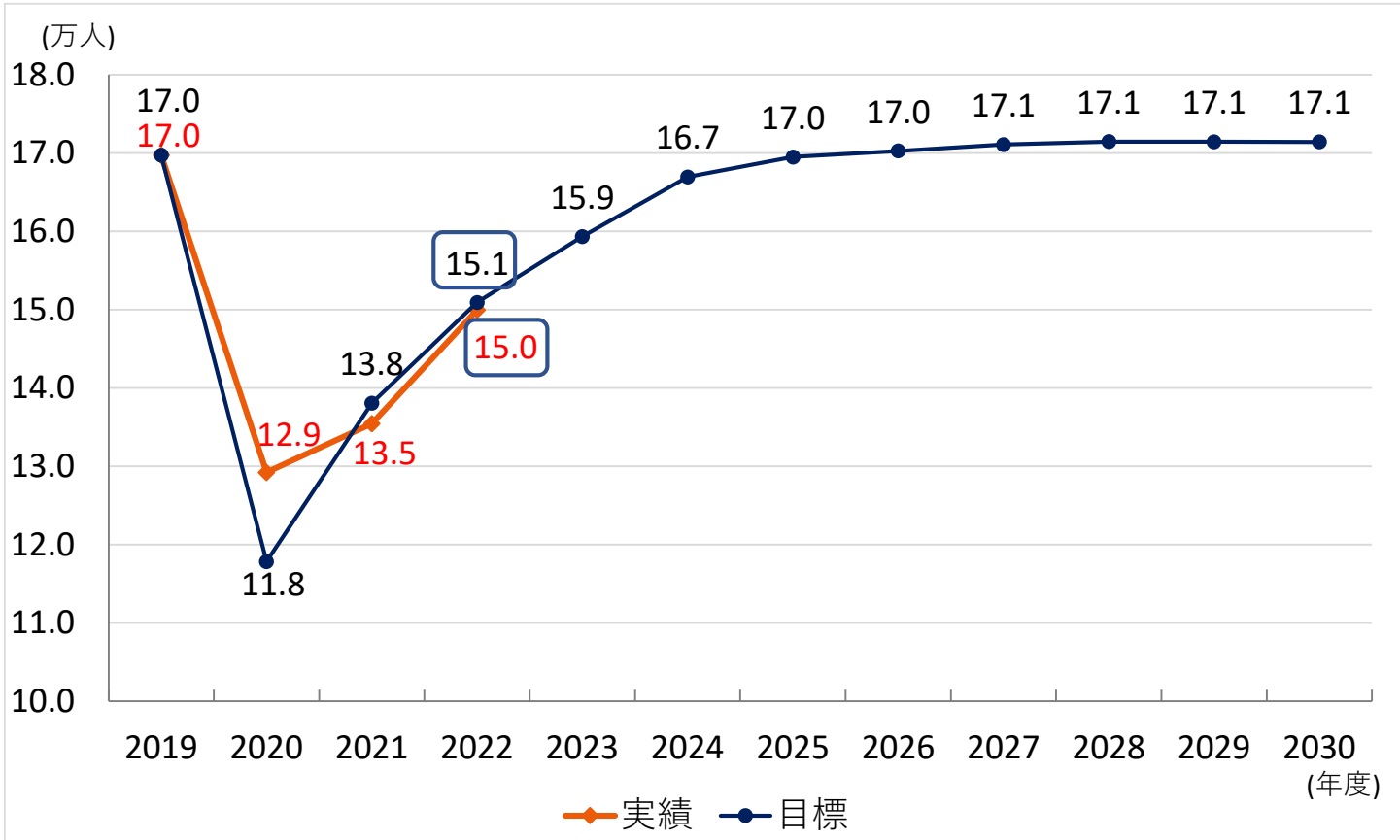
※2 市民1人当たりの公共交通への公的資金投入額＝公共交通への公的資金投入額÷推計人口（注）目標値は計画策定時の物価水準により算出したもの

（記載に当たっての留意事項）

- 本様式中、表題の「(〇年〇月～〇年〇月)」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「-」と記載してください。
- 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

1日当たりの公共交通利用者数(鉄道・バス・旅客船)

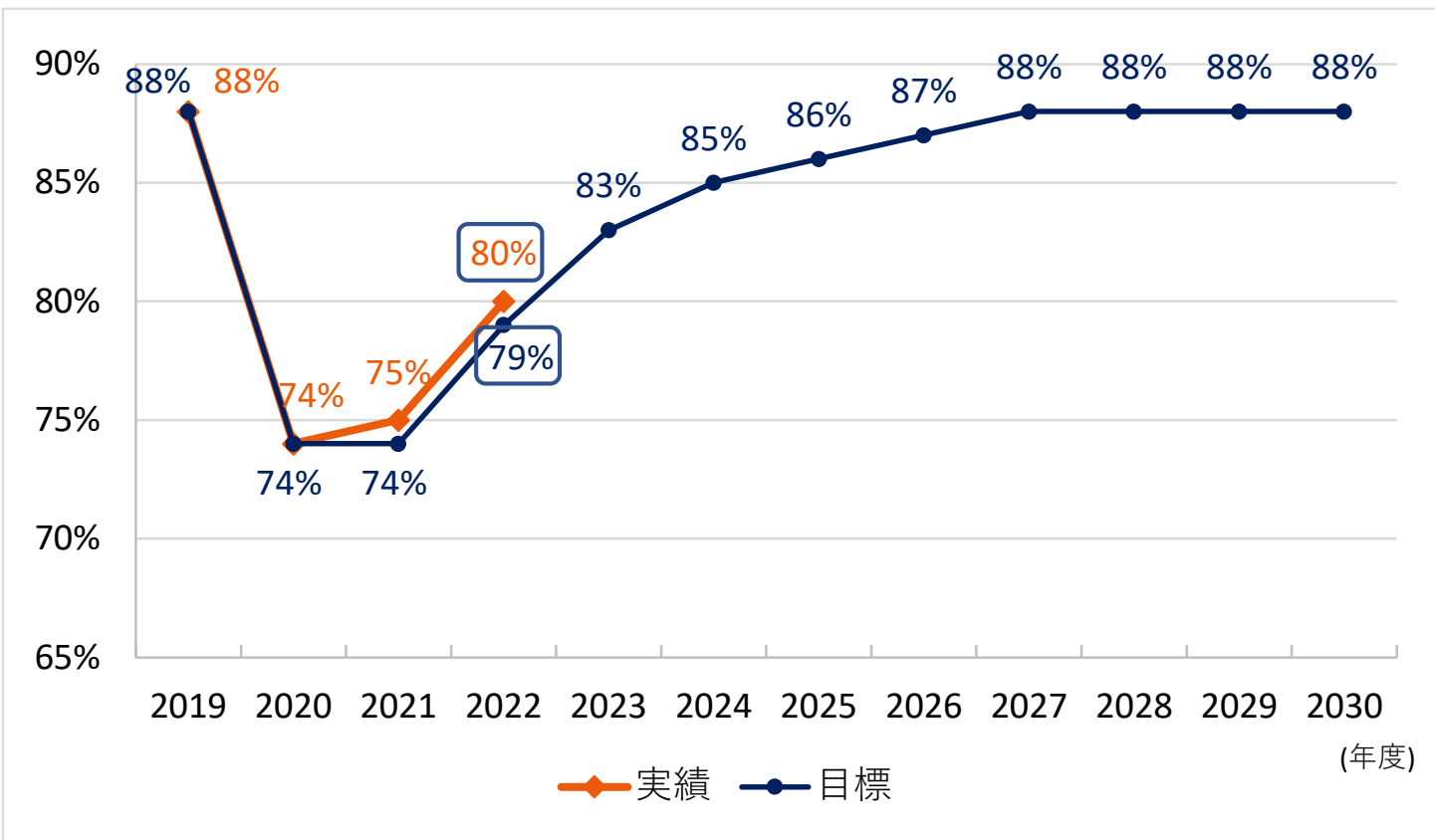
17万人 ⇒ 17万人 ⇒ 17.1万人
(2019年度現在) (2025年度目標) (2030年度目標)



公的資金が投入されている公共交通の収支率

88% ⇒ 88%

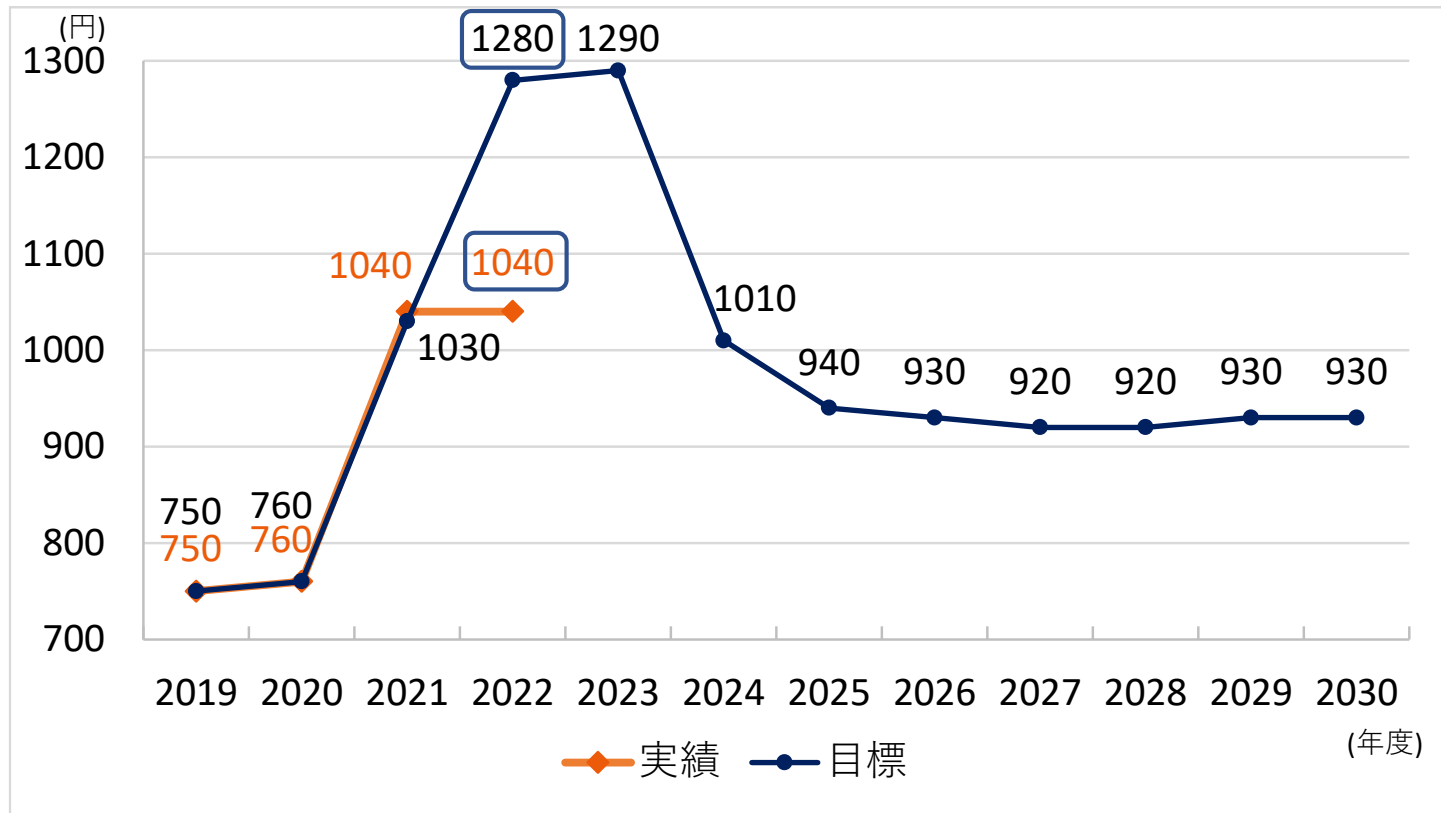
(2019年度現在) (2030年度目標)



3 計画の数値目標

市民1人当たりの公共交通への公的資金投入額(上限額)

750円 ⇒ 940円 ⇒ 930円
 (2019年度現在) (2025年度目標) (2030年度目標)



3 令和4年度 事業評価

姫路市総合交通計画 令和4年度事業（32事業）評価一覧【別紙（資料1-3）】

基本地域	事業名	R4年度評価	概要	R4年度評価コメント
ニーズに対応した安心・快適な移動できる公共交通の整備	1-1 JR山陽本線・JR播但線・JR姫新線山陽電鉄本線・山陽電鉄幹線	B	利用促進活動や鉄道事業者への要望活動により、鉄道のサービス水準の維持・向上に努めるとともに、利用者の増加や地域の活性化を目指す。	姫新線車両基地見学会をはじめ利用促進活動を進めるもコロナにより一部のイベントは中止となった。 ●JRに対し各要望活動を実施するも、JRの経営悪化により播但線において昼間時間帯に減便となった。
	1-2 バス路線網の維持	A	●バス事業者と連携し、利用ニーズに沿ったサービスの拡充や利用促進を進める。 ●ポランティア等を活用しながら、適切な行政支援を行う。	●バス事業者と協働を通じて利用促進に関する取組や利用状況に応じたサービスの見直しによる補助金の削減を減らめながら適切に行政支援を実施しバス路線の維持に努めた。 ●燃料費高騰への対策として支援制度の創設し、補助金を交付した。
	1-3 バス路線網の再編	B	●地域住民に最適な移動サービスを提供するため、バスの便数や重複路線の見直し、ルートの変更等により、効率的で利用しやすいバス路線網の再編に努める。	●東西部の再編を再生産のテーマ課題として提供し、発生から提案を受けた。次年度以降の再編の参考とする。 ●利用者の利便性を損なわない範囲でダイヤの適正化に努めたが、それ以上の具体的な再編等には及んでいない。
	1-4 郊外部と都心部を連帯するバス路線の機能強化	B	●鉄道との重複区間や駅との接続が悪い路線について、鉄道との役割分担によりバスの定時性、速達性の向上を図る。 ●郊外部を減少路線を導入し、移動の多様性を確保する。	●余部駅周辺の道路整備に遅延がなく、具体的な検討には及んでいない。 ●姫路港と節原駅の接続に向け検討し、バス運行には節原駅周辺の道路整備が不可欠であることが分かった。
	1-5 離島航路の運営支援	A	●島民の減少に伴う旅客船利用者の減少により航路を取り取り環境は厳しくなる中、安定した運航を維持するため、各種補助制度の活用による運営支援を行う。	●防務島航路において、国庫補助金取得のため計画を策定するとともに、経営改善に向けた事業者との協議を進め、効率的な船舶の投入や料金改定を実施し、航路の維持に努めた。 ●燃料費高騰への対策として支援制度を創設し、補助金を交付した。
	1-6 姫路港旅客ターミナルエリア再編整備	B	●姫路港の「交通結節点の快適性・利便性向上」、「効率的な機能配置による貨物と旅客のすみわけ」、「玄関口としてふさわしい良好な景観の形成」等を目的に、旅客ターミナルエリアの再編整備を進める。	●整備箇所が多く、エリアが広範囲であるため、各整備箇所の着手時期等が流動的であるが、兵庫県が順次整備を進めている。
	1-7 地域公共交通の導入	A	●優先的に検討する交通空白・不便地について、地域住民や公共交通事業者と共に地域公共交通の導入を目指す。 ●ポランティア輸送や自家用有償運送など住民主体の公共交通導入について交通事業者との調整等を実施する。	●安富地域、菅野地域、前之庄地域、香寺地域への地域公共交通導入の可能性について事業手法を検討した。 ●高木地域は予約時間を運行1時間前までに変更し利用者は増加したが、乗率は低下したため利用促進を実施した。
	1-8 タクシーの活用	A	●郊外などの小規模移動需要や大型車両が通行できない地域の移動手段としてタクシーの活用を検討する。 ●福祉タクシーなど高齢者等が乗降しやすい車両の導入を促進する。	●広峰地域では地元や交通事業者した結果、ポランティア輸送以外の輸送手段について検討していくこととなった。 ●広峰地域におけるポランティア輸送の導入に向け、タクシーと協働した。 ●福祉タクシーの導入についてタクシー事業者等からの要望はなかった。
	1-9 広域連携公共交通の導入	B	●日常生活圏が他市町と跨るような地域において、近隣市町と連携し広域的な公共交通の導入を目指す。 ●日常生活圏が他市町と跨る地域間の交通課題を解決するため近隣市町と広域的な地域公共交通計画の策定を目指す。	●ふくのみめのダイヤ改正に伴い新時刻表を沿線地域に全戸配布し利用促進したが、地域住民との意見交換までは至らなかった。 ●広域的な地域公共交通計画については、関係市町との協議の共有を図るも課題整理までは至らなかった。
	1-10 幹線道路整備	A	●市内各地で発生する交通渋滞解消に向け、整備プログラムに基づく効率的な幹線道路整備を進める。 ●国際競争力の強化や災害時の緊急道路としての機能が期待される播磨臨海地域道路の整備促進を図る。	●整備プログラムで示された前期着手3路線と後期着手1路線において事業を進めた。 ●播磨臨海地域道路は、都市計画・環境アセス手続きに向け国や県が実施する関係機関協議に係る調整を実施した。
	1-11 バスベイ設置推進	A	●渋滞緩和や追突事故防止等のため、運行本数や交通量が多い路線、乗降客数の多いバス停留所について、重点的にバスベイの設置を進める。	●道路管理者に向けて道路整備時のバスベイ設置への協力を要請した。
多様な交通手段を選択できる、人とまちなをつなぐ交通環境の充実	2-1 Maasの活用	A	●ウェブサイト等で目的地に対応した乗継案内サイトの開設や公共交通におけるキャッシュレス化、Maasアプリの開発を促進する。	●Maasミーティングに参加するなど他都市状況や全国的な情報を収集した。
	2-2 新駅整備(UR姫路駅一英貨駅併設)	A	●鉄道へのアクセス性向上とともに、手柄山中央公園の再整備に合わせ、公園に直結したアクセス交通の確保を目指し、新駅や周辺道路の整備を進める。	●令和8年春の新駅開業に向け、予定通り周辺道路等の工事に着手した。
	2-3 鉄道駅周辺整備	A	●多様な移動手段での交通アクセシビリティの向上とともに、人の交流やまちの賑わいを促進する空間の確保に向けた交通結節点の整備・機能強化を図る。	●山陽電気大塚駅では駅前広場の整備や南工区の道路改良を完了し、引き続き北工区の道路改良を進める。 ●JR英貨駅では自由通路等各種設計が完了した。
	2-4 バス停留所整備	A	●利用者の多いバス停留所について、周辺施設も活用しながら上屋やベンチの設置を進める。	●上屋やベンチの整備を促進するため、バス事業者と協議し「姫路市乗合バス停留所に係る上屋及びベンチ整備費補助金交付要綱」を制定した。
	2-5 パーク&ライド、パーク&バスライド	B	●都心部への自動車交通を抑制し、都心の交通混雑緩和を進めるため、郊外の駅駐車やバス停留所において、駐車場整備を促進する。	●姫新線、播但線ともに駐車場マップチラシを作成し、広報・啓発を図った。 ●播但線同業会HP作成に向けた事務局との協議は実施できなかった。
	2-6 サイクル&バスライド	S	●バス停留所への自転車アクセス向上のため、利用者が多いバス停等において駐輪場の整備を進める。	●県内初の取組としてマックスバリュ、神姫バスとの3者協定を締結し、マックスバリュ既存駐輪場を活用したサイクル&バスライドを4箇所を実施した。
	2-7 道の駅整備	B	●本市の主要観光地を訪れる観光客の7割以上が自動車利用であることから、自動車利用者へのおもてなしを強化するとともに、公共交通利用促進のための交通結節点とすべく道の駅を整備を令和8年度の開業を目指して進める。	●測量等の一部事業について令和5年度に継続して実施することとした。 ●事業手法を検討しDBO方式にて実施することに決定した。
	2-8 自転車通行空間の整備	B	●自転車を市民生活の移動手段や観光地までの移動手段の一つとして位置づけ、歩行者・自転車・自動車が安全・安心で快適に通行できる自転車通行空間の整備を進める。	●姫路市自転車通行空間整備推進計画に基づき、幹線43号線（車道混雑）ほか1路線において整備を進めたが、当初計画のうち1路線については整備できなかった。
	2-9 放置自転車対策	A	●歩行者や自転車が安全で快適に移動できる道路空間を維持するため、駐輪場の整備運営等により放置自転車の発生を抑制する。	●放置自転車が顕在化していた亀山駅において駐輪場を移転整備し、放置自転車禁止区域とすることで改善を図った。 ●放置自転車禁止区域における巡回と放置自転車への警告及び撤去等をほぼ毎日実施し、放置自転車を撤去した。
	2-10 シェアサイクル「姫ちやり」の利用促進	A	●公共交通を補充し、中心市街地の活性化や都心部の回遊性の向上を目的にシェアサイクルの利用促進を図る。	●利用者が安全・快適に利用できるような設備高換を実施し、事故なく運営することができた。 ●令和5年度のスマートロック式への移行を目指し、システム等の検討、関係機関との協議、調整を実施した。
	2-11 歩行環境の充実	A	●より安全・安心、快適な歩行環境の充実を目指して、「居心地良く歩きたくなるまちなか」の形成に向けた取組や路上喫煙対策を進める。	●公募により歩行者利便促進路線区域における占用者を選定し、令和4年8月から占用を開始し賑わい創出に努めた。 ●中心市街地において公共空間利用の社会実験を実施し、公共空間の利用者の仕組みづくりを行った。 ●路上喫煙監視隊員の巡回による路上喫煙対策を実施するとともに、市民アンケートにより意見集約を行った。
持続可能な公共交通を地域や多分野で支える仕組みの形成	3-1 沿線地域の活性化	A	●他市町や地域住民等と協力しながら、地域の公共交通である鉄道やバスの愛着の醸成につながる利用促進活動に取り組む。沿線地域の活性化を目指す。	●姫新線車両基地見学会を3年ぶりに実施。募集100名に対し1200名を超える応募が有り、盛況に開催できた。 ●本市初の取組として地域の小学生が描いたバスの絵画を車内に展示する「走るギャラリー」バス絵画展を実施した。
	3-2 公共交通のバリアフリー化	B	●高齢者や障害者等だれもが安心して公共交通を利用できるよう公共交通のバリアフリー化に取り組む。	●ノンステップバスへの補助は、バス事業者からの申請が1台で当初計画には及ばなかったが補助を実施した。 ●夢前川駅のバリアフリー化に補助金を交付し、バリアフリー化を促進した。
	3-3 感染症対策	B	●感染症の感染拡大防止に向けた支援により、誰もが安全・安心に利用できる交通手段の確保に取り組む。	●各交通事業者は既に感染症対策を実施していることから感染症対策としての補助金交付等は行わず、代わりに燃料価格高騰対策支援を実施した。なお、コロナ5類移行のため取組を終了し、今後新たな感染症が発生し次第再開する。
	3-4 総合情報案内	B	●姫路駅での案内の充実や市内の施設間の移動利便性向上のためのマップ（簡易版総合時刻表）の作成、情報案内板の制作等に取り組む。 ●本市を初めて訪れる人も迷わず快適・円滑に移動できるよう、わかりやすい情報案内を目指す。	●既存パンフレットを活用した観光・交通情報の提供を実施した。 ●地域DMOにおける移動円滑化に向けた情報発信について引き続き検討を行う。
	3-5 ノーマイカーデーの推進	B	●地域の公共交通を将来にわたって守り・育てるとともに、二酸化炭素排出削減のためノーマイカーデーの実施とその拡大に向けた普及・啓発活動を行う。	●エコドライブの啓発を実施する中で、自転車や公共交通機関の利用についても啓発した。 ●啓発用換断車については設置場所に空きがなかったため、令和4年度は設置していない。
	3-6 ノーマイカー・マイ電車の日	B	●毎月最終金曜日を「マイバス・マイ電車の日」と定め、公共交通の利用促進するとともに、交通事業者や他の自治体とともに活動を推進する。本市では市内ノーマイカーデーの取組に合わせて実施する。	●ノーマイカーデーに併せて啓発活動を実施するも、コロナ禍でもあり、取組の実施自体は出来なかった。
	3-7 モビリティ・マネジメントの推進	A	●学校や市民、企業等に対し、公共交通の利用を促す「モビリティ・マネジメント」を実施することで、公共交通の利用促進を図るとともに、地域の公共交通を将来にわたって守り・育てる意識喚起や交通事業者とともに取り組む。	●小学校でのバスの乗り方教室や姫路高校での座談会（探究研究）をバス事業者とともに実施した。 ●小学生が描いた絵画をバス車内に展示した「走るギャラリー」バス絵画展を実施した。 ●広報ひめじ9月号に「公共交通の現状と必要性」に関する特集記事を掲載し、利用促進を図った。
	3-8 運転免許自主返納	A	●警察や交通安全協会等と連携しながら、高齢者の運転リスクや運転免許返納による公共交通の運賃割引特典など広報・啓発し、高齢者の自主的な免許返納につなげる。	●交通安全教室は開催回数、受講参加者ともに前年度より増加し、高齢者の交通安全啓発に努めることが出来た。 ●窓口等で啓発リーフレットを配布したが、予算上、限られた人数しか配布出来ず要望に対応できない部分もあった。
	3-9 公共交通情報の発信	B	●運行状況や利用状況等について広く情報発信し、交通情報の周知・共有することで公共交通の利用促進を図る。 ●複数の公共交通情報を共有できるウェブサイトを作成するなど、公共交通に対する認知度向上を目指す。	●ウェブサイトの開設に向け検討するも、具体的な方向性の決定には至らなかった。
	3-10 出前講座の実施	A	●公共交通の認知度向上と利用者の意見聴取を目的とした意見交換の場として出前講座を実施し、公共交通の現状や課題、利用方法等を共有するとともに、愛着の醸成を図ることで公共交通の利用促進、サービス向上につなげる。	●出前講座を2回（西播社会保険推進協議会、姫路商業高校）実施した。

3 令和4年度事業評価

1-3 バス路線網の再編 【B】

▶地域住民に最適な移動サービスを提供するため、バスの便数や重複路線の見直し、ルートの変更等により、効率的で利用しやすいバス路線網の再編に努める。

- ▶南西部の再編を再生塾のテーマ課題として提供し、塾生から提案を受けた。次年度以降の再編の参考とする。
- ▶利用者の利便性を損なわない範囲でダイヤの適正化に努めたが、まずは南西部の再編から進めることとし、その他のエリアについては具体的な再編等には及んでいない。

姫路駅北部市街地エリア



姫路駅南東部エリア



姫路駅南西部エリア



安富エリア

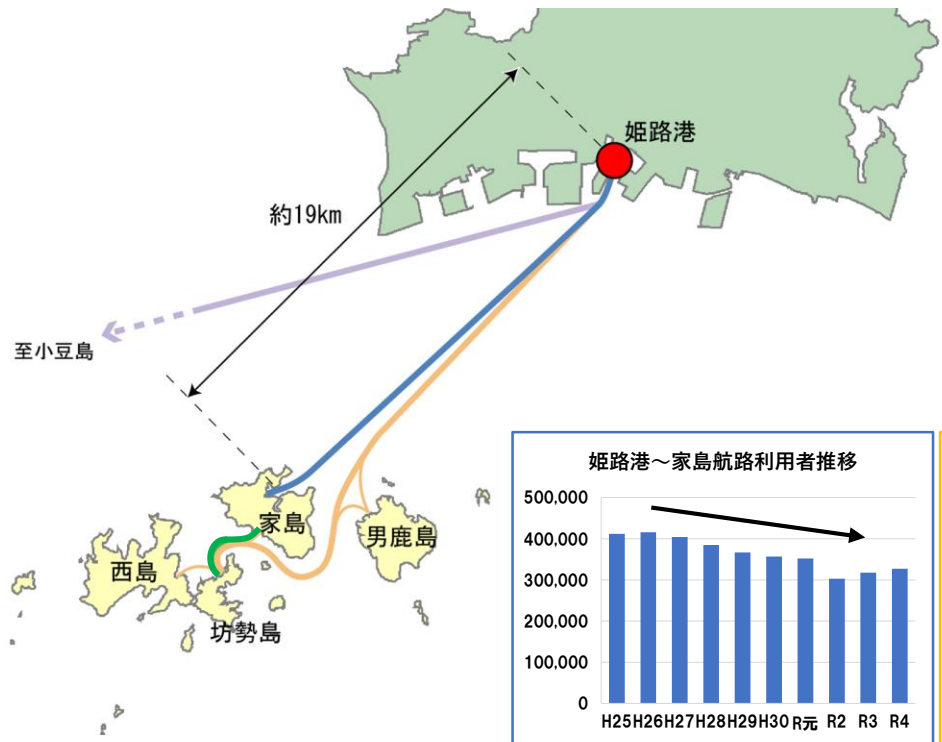


3 令和4年度事業評価

1-5 離島航路の運営支援 【A】

▶島民の減少に伴う旅客船利用者の減少により航路を取り巻く環境は厳しくなる中、安定した運航を維持するため、各種補助制度を活用しながら運営支援を行う。

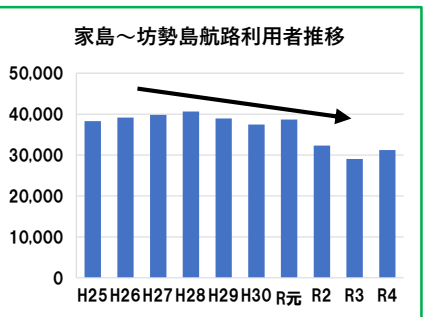
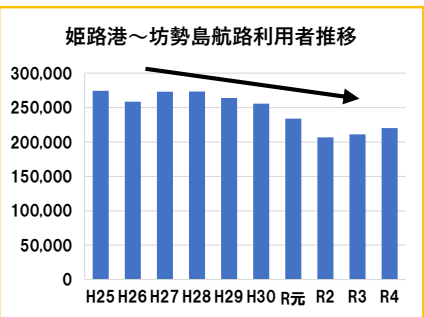
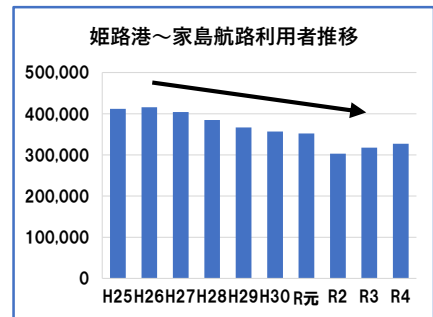
- ▶国庫補助金を取得するため計画を策定するとともに経営改善に向けた事業者との協議を進め、効率的な船舶の投入や料金改定を実施し、航路の維持に努めた。
- ▶燃料費高騰への対策として支援制度を創設し、補助金を交付することで航路の維持に努めた。



姫路港～家島 (1000円)
 高速いえしま(株) 8往復
 (有)高福ライナー 平日土祝8往復、日曜9往復
 R4. 10より

姫路港～坊勢島 (1000円 → 1300円)
 坊勢輝汽船(株) 12往復
 R5. 5より

家島(網手)～坊勢島 (320円 → 400円)
 坊勢渡船(有) 平日11往復、土日祝9往復



3 令和4年度事業評価

2-4 バス停留所整備 【A】

・利用者の多いバス停留所等について、周辺施設も活用しながら、上屋やベンチの設置を進める

・上屋やベンチの整備を促進するため、バス事業者と協議を行い、新たに「姫路市乗合バス停留所に係る上屋及びベンチ整備費補助金交付要綱」を制定した。

要綱の概要

◆補助対象施設

以下の条件を満たす上屋、ベンチ

新設

- ① 病院や老人福祉施設、公共施設
が近接する停留所
- ② 乗降人数が100人以上の停留所

改修

既存施設（現状機能の向上に資するもの）

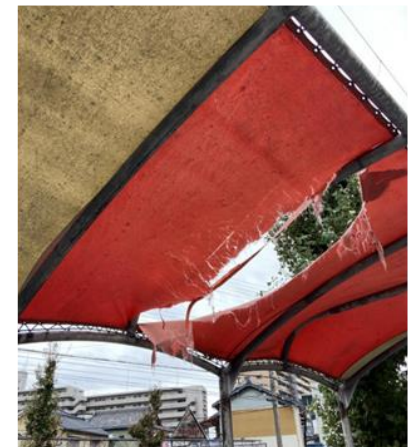
令和5年度整備予定箇所（抜粋）

ベンチ設置



はりま姫路総合医療センター
バス停

上屋改修



今宿琴丘高校前
バス停

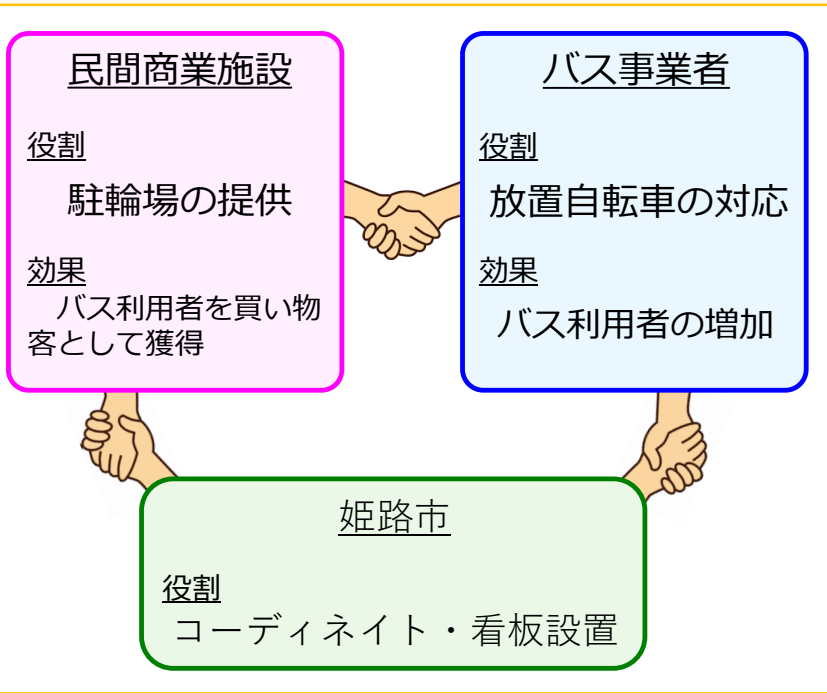
3 令和4年度事業評価

2-6 サイクル&バスライド 【S】

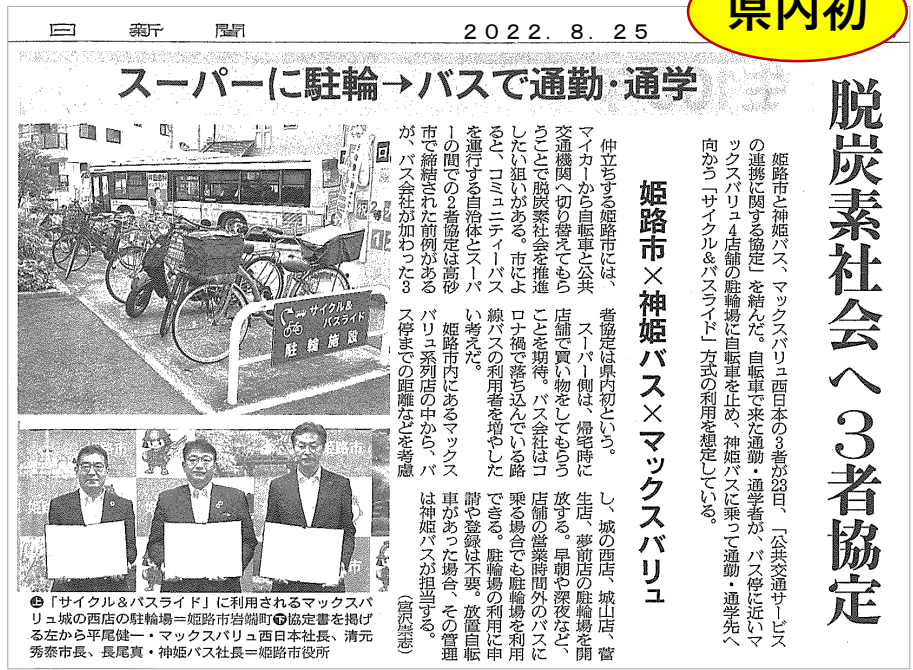
・バス停留所への自転車アクセス向上のため、利用者が多いバス停等において駐輪場の整備を進める。

・バス停周辺の民間商業施設の駐輪場を活用するためマックスバリュ、神姫バス、姫路市で3者協定を締結し、マックスバリュ4店舗(城の西店、城山店、菅生店、夢前店)にて運用を開始

3者連携による取組の推進 (連携イメージ)



県内初



神戸新聞等で記事が掲載され、広く広報できた

3 令和4年度事業評価

3-1 沿線地域の活性化 【A】

▶他市町や地域住民など多様な主体と協力しながら、地域の公共交通である鉄道やバス路線への愛着の醸成につながる利用促進に取り組むとともに、沿線地域の活性化を目指す。

- ▶姫新線の利用促進として車両基地見学会を3年ぶりに実施。全国から1200名を超える応募があり、盛況に開催できた。
- ▶ノベルティグッズを作成し、イベントで配布した。
- ▶小学生が描いた絵画をバス車内に展示した「走るギャラリー!!バス絵画展」を実施。地域を走行することで、地域全体において公共交通への関心を高めた。



姫新線 車両基地見学会



走るギャラリー!!バス絵画展

3 令和4年度事業評価

3-3 感染症対策 【B】

▶感染症の感染拡大防止に向けた支援により、誰もが安全・安心に利用できる交通手段の確保に取り組む。

▶令和3年度までは感染症対策への支援を本市独自で実施していたが、令和4年度に入り、各交通事業者はすでに感染症対策を実施していることから感染症対策としての補助金交付等を行わず、代わりに燃料価格高騰対策支援を実施した。

令和5年度以降の本事業の取り扱いについて

新型コロナウイルス感染症が5類へと移行したため、本事業については、令和4年度をもって一度、終了し、今後、新たな感染症が発生し次第、再び事業を再開する。

事業スケジュール（現在、変更(案)）

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
現在	[現在の実行スケジュール: R3からR12まで連続した灰色の帯]									
変更	[変更案のスケジュール: R3からR4まで連続した灰色の帯、R5からR12まで個別の灰色の正方形、R12の最後は矢印]									

公共交通を支える3者の役割と連携

